

2008年1月から2022年12月の間に当院で食道切除術を受けたみなさまへ
～ 臨床研究「食道がん患者における食道切除術後に起こる急性腎障害および
急性腎臓病の頻度、リスク因子、転帰に与える影響に関する研究」
へご協力をお願い ～

当院では2008年1月1日から2022年12月31日の間に食道切除術を受けた患者さんを対象に、術後急性腎障害および急性腎臓病（以下、「急性腎障害など」）のリスク因子を解析する研究を行なっています。

この研究は患者さんの診療録や麻酔記録などをもとに、どのような患者さんが手術後に腎臓の機能が悪くなりやすいかということ（リスク因子）を調べるもので、その結果を広く公表することで食道切除術における麻酔管理方法の改善に役立てようとするものです。

診療録や麻酔記録などすでに存在する資料を利用するにあたり、直接患者様ひとりひとりから同意をいただくということはいたしません、本研究に参加したくない（資料を研究目的に利用されることを希望しない）場合や途中から参加の取り止めを希望される場合は、お手数をおかけいたしますが下記の問い合わせ先へご連絡下さいますようお願い申し上げます。また、疑問に思われる点やご質問などがございましたら、どうぞ遠慮なくお尋ね下さい。

1) 研究の目的

手術後に急性腎障害などが発生すると麻酔や手術からの回復が遅れ、心臓や肺などの腎臓以外の臓器の機能が低下する可能性があることや、手術の種類によっては死亡率を高める可能性があることが知られています。したがって過去のデータを解析し、どのような患者さんで手術後に腎機能が悪くなりやすいかということ（リスク因子）を調べることは、急性腎障害などを効果的に予防する上できわめて重要なことであると考えられます。今回の研究では食道切除術に焦点を絞り、リスク因子を見出すためにデータを収集しています。

2) 研究の対象と方法

2008年1月1日から2022年12月31日の間に食道切除術を受けた患者さんを対象に、診療録や麻酔記録などからデータを収集します。調べる項目は患者さんの年齢や性別、術前の内服薬、高血圧や糖尿病などの合併疾患の有無、輸液量や輸血量などの手術中のデータ、手術後の腎機能に関するデータ（クレアチニン）などです。この研究ではすでに存在する資料のみを利用しますので、

この研究のために新たに検査を行うようなことはありません。

3) 予想される結果について

この研究を行なうことによって、食道切除術後の急性腎障害などのリスク因子が明らかとなることが期待されます。そしてリスク因子を見出すことによって、手術前あるいは手術中にリスク因子を避けるように麻酔方法を改善できる可能性があると考えられます。また、リスクが高い患者さんの特徴が明らかになることで手術後に集中的なケアが可能となり、手術後の急性腎障害などの効果的な予防や発生時の効果的な対処が可能になるかもしれません。本研究で新たに得られた知見を広く公表することで、食道切除術における麻酔管理の進歩に寄与できるものと考えます。今回、この研究に参加した個々の患者さんにとっては、特に利益を得ることも不利益を蒙ることもありません。

4) 個人情報保護について

データを収集する際には匿名化を行ない、直接個人を特定できるような情報を使用いたしません。

5) 研究成果の公表について

研究で得られた結果は、学会および学術専門誌上で公表する予定です。公開内容には、個人のプライバシーに関することは一切含まれません。

6) 費用について

研究に伴う費用は全て研究費で賄われます。また、本研究参加への謝金はありません。

7) 本研究に関する連絡先

研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手や閲覧をご希望の方、その他、本研究に関するご相談などがございましたら、下記までお問合せ下さい。

〒135-8550 東京都江東区有明 3-8-31

公益財団法人がん研究会 有明病院 麻酔科（ペインクリニック）

Tel : 03-3520-0111 (大代表)

研究責任者： 石川 晴士